

八ヶ岳・赤岳

年 月 日	2019年7月29日～31日
天 気	3日共晴れ時々曇りや夕立
集合場所・時間	JR 芦屋南 6:45
参加人数	19名（内V4名）
歩行時間・距離	コースタイムに記載
費 用	約 39,000 円

コースタイム

7月29日（月）全員

美濃戸口 12:29～休憩 2回、6分～美濃戸山荘、北沢入口 13:30/13:34～北沢～休憩累計 43分～赤岳鉱泉 16:13

歩行時間 3:44、歩行距離 7.5km

7月30日（火） Aコース

赤岳鉱泉 6:58～休憩累計 14分～赤岩頭 8:29/8:38～硫黄岳 8:57/9:09～硫黄岳山荘 9:31/9:50～休憩 10:23/10:29～横岳・奥の院（最高峰）10:45/10:56～三叉峰 11:09/11:21～休憩 11:44/11:53～赤岳天望荘（一旦チェックイン、ランチ）12:25/13:30～赤岳 14:05/14:22～展望荘 14:47

歩行時間 4:52、歩行距離 7km

7月30日（火） Bコース

赤岳鉱泉 7:00～行者小屋 7:40/7:50～地蔵の頭～赤岳展望荘 9:25/9:50～赤岳頂上小屋 10:40～赤岳頂上 11:00/11:15～文三郎尾根キレット分岐 12:00～途中の階段（お昼）12:10/12:20～行者小屋 13:20/13:30～赤沢鉱泉 14:10

歩行時間 5:40、歩行距離 9.0km

7月31日（水） Aコース

赤岳天望荘 7:27～地蔵尾根～休憩累計 7分～行者小屋 8:27/8:48～南沢～休憩累計 14分～美濃戸山荘 10:57～赤岳山荘 11:04/11:09～美濃戸口 11:47

歩行時間 3:32、歩行距離 8.7km

7月31日（水） Bコース

赤岳鉱泉 8:00～北沢～美濃戸山荘 10:10/10:20～八ヶ岳山荘（美濃戸口）11:05

歩行時間 2:40、歩行距離 7.0km

感想

7月29日（月）

今回の赤岳は2017年に計画し雨で中止となったそのリベンジ登山。憧れの赤岳！ですが、我々世代は1年毎に間違いなく脚力が落ちているので、出来るだけ参加しやすいようにAコースは硫黄岳、横岳、赤岳の縦走組、Bコースは赤岳直登組に分かれました。

JR 芦屋南を貸切バスで6:50に出発、登山口の美濃戸口には12時過ぎに到着、車内で昼食を食べ終えているのでトイ、登山準備をして12:30には出発出来ました。

林道を歩きますが、アブがうようよと衣服、体にたかります。あまり虫よけスプレーは効かないようです。1時間ほどで美濃戸山荘の北沢、南沢分岐まで来ました。今日は北沢を歩きます。先週末あたりで西から徐々に梅雨明けですが、この八ヶ岳近辺はまだ天候が不安定らしく、前夜はかなりの雨が降ったとか。お陰で北沢の水量は多く、岩の間を流れる落ちる豪快な水、岩盤を流れる滑滝（ナメタ）など音と冷風で快適登山です。

3日間のロングトレイルなので、あせらずゆっくりと休憩を何回もとって16時過ぎには今宵の宿、赤岳鉱泉に到着。何と到着直後に夕立、「ラッキー、ついてるで！」と今回の山行はいいことがありそう。

夕食はステーキ！ビールもまたうまし。部屋は奮発して個室をとったため、ゆっくりと寝ることができました。

7月30日（火）Aコース

Aコースの我々11名は赤岳鉱泉を7時にスタートし、樹林帯の中を約1時間で抜け切ると展望が開け赤岳、中岳、阿弥陀岳が美しく見えてきます。

さらに30分登って森林限界を過ぎて、赤岩の頭で360度の絶景に各々が写真撮影。

高校生のパーティに若さと元気（負けん気？）をもらい硫黄岳に到着。硫黄岳は大きな爆裂火口があり大迫力です。吸い込まれそうになりながらもこわごわ写真撮影です。

火山岩盤のような石の上を歩きながらも、岩の間に咲いている紫リンドウや可憐なピンクのコマクサ、キバナシャクナゲなどの高山植物に歓声があがります。

次の横岳は八ヶ岳の中では2番目に高い山で険しい岩稜帯の山で、鎖場、岩場の難所ですが、三点確保で登りました。

連続するギザギザのピークを何度もクリアし、最高峰の奥の院や三叉峰というてっぺんにも登りました。

下山はさらに慎重に、鉄ハシゴ、鎖、ロープなどを使って下山しました。

無事12:25に赤岳天望荘に到着。ここでお弁当の中華ちまきを美味しくほおばり、無料のコーヒーもあり、ありがたくホッと一息！

明朝登る予定の赤岳に、今日の内にというリーダーの判断で、13:30赤岳に向かいます。

赤岳は八ヶ岳最高峰で、ゴロゴロ岩で、鎖場、岩登りが続きハードです。が、しっかり整備されているのでコースタイム45分のところ35分で登り、下山もお風呂タイムが迫っていたので14:40に山荘に戻り、女子3名はお風呂に直行。五右衛門風呂が珍しかったです。7時間の疲れと汗を流し、ビールの美味しかったこと。

スマホ紛失というハプニングも奇跡的に（奇跡も奇跡！）本人の手元に戻り、ハッピーに乾杯しました。

八ヶ岳はコマクサ、特に希少なシロコマクサ、シナノキンバイ、キバナシャクナゲ、キヤマオダマキ、リンドウ、ゴゼンタチバナなど可憐な高山植物が豊富で人気があって、小学生の子供連れファミリーやカップル、若い山ガール（しかも単独）、台湾からの若者グループなど、たくさんの人と出会い楽しかったです。

今回の夏山は私にとって、ルベール14年の集大成のような、迫力と満足のいく山行になりました。

リーダーの方々、ありがとうございました。

7月30日(火) Bコース

午前7時、Aコースのメンバーに続き、Bコースのメンバー(男性5名、女性3名)もスタート、行者小屋に向かって軽い登りを歩く。昨日の夕方に降った雨でシラビソの木々に緑の苔がなんとも美しい。避暑地に来た感じで心が和む。約40分で行者小屋に着く。

ここで記念写真を撮る。男性1名体調の関係でここまでの、ここからはTリーダーのもと7名で地蔵ノ頭(2722m)に向かって地蔵尾根を350m直登する。最初の難関である。初めはそうでもなかったが、暫くすると徐々に勾配がきつくなる。息を整えるため、時々視界が開けた場所で休憩をとる。周囲の山々は非常に雄大で美しい。下には行者小屋が小さく見える。中腹ぐらいから鉄の階段や鎖の岩場を登っていくことが多くなる。お地蔵さんの手前の鎖場は緊張した。Tリーダーもメンバーにしっかり鎖を持ち、岩を掴んで進むよう指示がある。岩場をまわって上がる時は本当に緊張した。登り終えてホッと一安心!行者小屋から100分ほどで地蔵ノ頭に到着した。70歳前後の我々には100点満点の頑張りだと思う。

到達した地蔵ノ頭からは、これから登る赤岳が右手、左手には横岳が見え素晴らしいハケ岳連山を見渡すことができ達成感を味わう。富士山が微かに見えたが、雲に隠れ全体が見えなかったのが残念である。

尾根を歩き赤岳天望荘に着き、弁当のチマキを1つ頂く。一服の後、気合を入れて赤岳に登る。150m程であるが急登に空気の薄いことも手伝って中々厳しい。頂上山荘迄50分と時間を要した。でも所々にミヤマキンバイ、シャクナゲ、イワギキョウなど色々な高山植物が咲き、気持ちやを和らげてくれた。我々の後方には同年配のグループが登っておられ、同様にしんどそう、お互い声をかけながら勇気をもらった。目標の赤岳2899mに登り記念写真、皆さん登頂の達成感にしばし浸る。山頂は狭いこともあり、人でいっぱいという感じであった。

赤岳から中岳の方へ岩場を降り文三郎道に入る。下から登ってくる人も多く「もう少し!頑張っ!」と声をかける。岩場の下りは、皆さん緊張感もあるが楽しそう。岩場の終わるころにはコマクサの花も見られ、くつろいだ気分になる。何か厳しい登山も終わりに近づくと名残惜しい気持ちである。文三郎道の長い階段の途中で腰を掛け、残りのチマキを食べながら景色を眺める。13時過ぎに行者小屋、そして14時過ぎに宿泊先の赤岳鉱泉に戻る。

天候も良く、皆で元気に楽しく2899mの赤岳に登れて最高の登山であった。早めの風呂に入り疲れを癒し、一杯のビールで喉を潤す。夕食も最高であった。昨日は牛肉のステーキ、今日はエビフライと野菜のスープ(ポトフ)、本当に美味しかった。今日一日、皆さん、すべてに大満足の様子でした。Tさん、登山のガイド有難うございました。

7月31日(水) Aコース

昨日赤岳天望荘に到着し、昼食後荷物を置き予定を早めてピストンで赤岳登頂を終えたため、今日の出発は5時半の朝食(昨夜と同じビュッフェスタイル)から2時間後の7時半とゆっくりスタート。メンバーの皆さんは無料の珈琲を飲んだり、雲の切れ目から漸くぼんやり見えてきた富士山の写真を撮ったりと各々ゆっくり過ごした。期待していたご来光は残念ながらガスと雲ではっきり見えなかったが、時折太陽が顔を見せてくれ、早く起きてスマホを構えていたメンバーは満足顔。

リーダーに急かされて赤岳をバックに集合写真を撮った後、下から風に乗って吹き上げて来るガスを少し気にしながら出発。気温はそれほど低くはない。

当初計画の赤岳~文三郎道経由行者小屋行きのルートから地蔵尾根経由行者小屋に変更となった為、地蔵ノ頭まで戻り、黒い火山の溶岩の様な岩が立ち並ぶ急な斜面を足元を確かめな

がら鎖を頼りに注意深く下りる。地面に鉄パイプ・網で組まれた階段は濡れて滑り易いので両手も使って慎重に進むが、昨日の縦走路と同じ様にちょっとスリリング（怖い？）で気が抜けない。一時間程で行者小屋に到着。一息入れここからは川筋の南沢ルートを取る。石がごろごろ転がる河原を通ったり、沢を渡ったり、結構長い道のりだったが、途中八ヶ岳特有の苔で蔽われた森も現れ、その美しさに癒されながら写真も取ったりし11時頃美濃戸山荘に到着。初日同様Yさんの車にメンバーのリュックを積み込み身軽になって、77を追い払いながらバスの待つ美濃戸口までの林道を急いだ。12時頃、先に到着していたBコースの皆さんと再会。お互いの無事を喜びそれぞれの行程についての話をしたりした後、3日間の汗を落とす為近くのもみの湯にバスで移動。入浴後、手配の豪華弁当を車内で食べつつ帰路についた。

今日31日は赤岳天望荘から美濃戸口までの高度差約1220mを休憩も含め4時間半で一気の下りたことになるが、往路の様な高山植物も殆ど無く山々も余り見られなかったが、穏やかな天気にも恵まれ気持ちの良い復路歩きであった。

7月31日（水）Bコース

8時ゆっくりめの出発でも早朝5時起床6時から朝食、7時から皆で団らんモーニングコーヒータイム（有料¥400）、体調、天気も最高。

赤岳鉱泉山荘を背に全員（美男美女）記念写真撮影。左斜め後方の赤岳に別れを惜しみTリーダーに代わってIさん先頭で、サー出発。15分後には早くも小休止（皆あれー？）

清流のビューポイントで写真撮影、29日午後到着の際は今にも雷雨に遭いそうでアブの大群を振り払い到着を急ぎましたが、今朝は快晴汗もかかず、やぶ蚊やアブも殆ど気にせず、なだらかな下りを和気藹々と下山。一時間もすると堰堤広場に到着し、10時過ぎ美濃戸山荘に着く頃にはいつの間にか先頭はTさんに戻り（？）Aコース組の下山予定時刻確認もありスピードアップ。

彼等に遅れてなるものかと、美濃戸口八ヶ岳山荘に11時05分に到着しました。最後に少しペースアップしたため、MさんIさんはバテられたようです・・・。

予定より30分以上早いので冷たい飲み物で喉の渴きを潤し余裕を持ってAコース組の到着を待つ。Bコース組（精鋭）の面目躍如？

Aコース組の到着を待つ12時バスにて全員帰路途中の八ヶ岳温泉「もみの湯」へ。露天風呂に浸かり3日間の夏山登山の汗を流し、ここで一人新潟に帰るYさんと別れ再会を期す。

皆さんビールを片手に車中で幕の内弁当をペロリ。その後全員感想を一言二言述べるうちには場も和み途中渋滞も無く予定より少し早い19時JR芦屋駅に到着。

Tさんの提案で今回参加の赤岳Bグループラインも共有し今後もより親睦を図れる事は大ヒット。

連日天候にも恵まれ、赤岳山頂登頂出来ました。急登、瓦礫、岩場、とタフなコースでしたが皆さん、無事大きな事故もなく踏破できたのは何よりでした。又山小屋の夕食のお肉、エビフライ、野菜スープ、もおいしくいただきました、景色最高（ガスった富士山には残念）。

Bコースの皆さんとの登山は最高でした、Tリーダー本当に御苦労様でした。次回を楽しみに皆様有難う御座いました。

記録は コース別

感想は コース別、2日目、3日目と 担当者が異なっています。